

# 目次

## 1章 序章

1 本書の目的	1
2 本書の構成	2
3 使用するコーパスについて	4

## 2章 低温形容詞「寒し」と「冷たし」の歴史の変遷

——二語の連体形を中心に——

1 はじめに	9
2 調査資料および調査対象	11
2.1 調査資料	11
2.2 調査対象	12
3 調査結果	13
3.1 全体の推移状況	13
3.2 形容する語彙	14
3.2.1 上代	14
3.2.2 中古	18
3.2.3 中世	21
3.2.4 近世	23
4 まとめ	29

### 3章 歌に見る「寒し」——韻文における比喻用法に注目して——

1 はじめに	33
2 調査結果	35
2.1 全体の使用状況	35
2.2 時代別に見る形容語彙	39
2.2.1 上代	39
2.2.2 中古	43
2.2.3 中世	45
2.2.4 近世	48
2.2.5 近現代	50
3 考察	53
3.1 「寒し」による比喻表現—その名	54
3.2 「寒し」による比喻表現—その式	63
4 まとめ	66

### 4章 風が寒く吹くのか——「寒し」の副詞用法に注目して——

1 はじめに	69
2 時代別に見る「寒し」の副詞用法	71
2.1 上代	71
2.2 中古	73
2.3 中世	76
2.4 近世	79
3 「寒し」の副詞用法についての考察	81
3.1 資料の性質から見る使用傾向	82

3.2 共起する述語動詞から見る使用傾向	83
3.2.1 必須成分としての使用	86
3.2.2 非必須成分としての使用	89
3.3 現代語に至って	93
4 まとめ	96

### 5章 「寒冷」と「冷寒」は完全な同義語なのか

——二字漢字表記語から見る温度感覚語彙——

1 はじめに	99
2 先行研究	101
3 調査対象および調査資料	102
4 調査結果	105
4.1 グループ1：「低温+低温」	105
4.1.1 「寒冷—冷寒」	105
4.1.2 「寒涼—涼寒」	109
4.1.3 「冷涼—涼冷」	110
4.1.4 「寒々—冷々—涼々」	111
4.2 グループ2：「低温+高温」	114
4.2.1 「寒暑」	114
4.2.2 「寒熱」	117
4.2.3 「寒暖」	119
4.2.4 「寒温」	121
4.2.5 「冷熱」	123
4.2.6 「冷暖」	124
4.2.7 「冷温」	124

4.3	グループ3 : 「高温+低温」	125
4.3.1	「暑寒」	125
4.3.2	「温冷」	125
4.4	グループ4 : 「高温+高温」	126
4.4.1	「暑熱—熱暑」	126
4.4.2	「温熱」	128
4.4.3	「温暖」	129
4.4.4	「熱々」「暖々」	130
5	考察	131
6	まとめ	136

## 6章 終章——まとめと今後の課題——

1	低温形容詞「寒し」と「冷たし」の歴史的変遷	139
2	韻文における「寒し」の比喻用法	140
3	「寒し」の副詞用法	143
4	二字漢字表記語から見る温度語彙	144
5	今後の課題	146
	参考文献	149
	初出一覧	153

# 1章

## 序章

### 1 本書の目的

本書では、上代から近現代における膨大な言語資料のなかで、温度感覚語彙が実際にどのように使用されているかを調査し、記述したうえで、それらの意味・用法の分析・考察を行ない、歴史的な観点から日本語における温度感覚語彙を論じる。

現代語においては、低温に関する表現のうち、「寒い」と「冷たい」があり、その相違について、すでにさまざまな分類や規定が行われている。この2語の初出に関しては、「寒し」の初出例は『日本書紀』において見られたのに対し、「冷たし」は10世紀末頃成立した『落窪物語』において見られ、「冷たし」の成立が比較的遅い。この2語の歴史的な使用状況について、近代以前の使用は現代語と同様の区別が完成したものと見られる。しかし、その分化の過程についてはまだはっきりしていないところがある。また、上代にすでに見られる「寒し」は長い歴史のなかで、どのような有様を呈し、使用され続けられてきたのか、そして、日本の言語生活がどのように反映されているのか、といった側面からの探求も、感覚語彙の全貌および全体的な推移を明らかにするには必要不可欠である。さらに、和語の